

政策整理番号 4

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部地域福祉課	関係部課室	
------	-----	-------	------------	-------	--

政策番号	1-1-4	政策名	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備
------	-------	-----	---------------------------------

施策番号	1	施策名	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発
------	---	-----	------------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 **概ね有効** 課題有

<p>【政策評価指標達成状況から】 有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標名:外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合 達成度 A ・(達成状況の背景)指標の達成度は目標値を上回るもので、バリアフリー社会への取り組みが理解されている。 ・(達成度から見た有効性)指標の達成度は調査対象者の状況や主観等により大きく影響されるものであるが、達成度は増加傾向を維持しており施策の効果が認められる。 <p>【政策満足度から】 概ね有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績と比較して、県全体の満足度は1.5ポイント増加し、かい離は3.5ポイント減少している。 <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】 概ね有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度による宮城県内の住宅改修費申請件数の推移は、平成13年度3,508件、平成14年度4,571件、平成15年度5,008件(平成13年度の1.4倍)と継続して拡大傾向にある。このことはバリアフリーに関する県民意識の高揚の一端であると考えられ、施策の効果が認められ、おおむね有効と言える。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策評価指標達成度は増加傾向を維持し、政策満足度も昨年より僅かながら増加しており効果が認められ、おおむね有効と言える。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	バリアフリーみやぎ推進事業	6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 **概ね適切** 課題有

<p>【国、市町村、民間団体との役割分担】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(国)ハートビル法、交通バリアフリー法等を制定し、バリアフリー社会実現に向けた法制度の整備を行っている。 ・(県)だれもが住みよい福祉のまちづくり条例により、本県全体の指針や基準を制定し、バリアフリー、ユニバーサルデザインの普及啓発について主導的役割を担っている。 ・(市町村)県が作成する各種資料などにより、住民への普及啓発を積極的に行っている。 ・(民間団体)バリアフリー等に取り組む団体等と連携を図り、バリアフリーの推進に向けた自主的な活動の更なる発展に寄与している。 ・上記役割分担に沿って事業は実施されており、県の関与は適切である。 <p>【施策目的を踏まえた事業か】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに関する普及・啓発を行うことにより、施設のバリアフリー化の促進、県民意識の向上を図るものであり、施策目的を達成する上で適切な事業である。 <p>【事業間で重複や矛盾がないか】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単一事業で実施しており、矛盾等はない。 <p>【社会経済情勢に適切した事業か】 概ね適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会の進展を受け、バリアフリーに関する県民意識の向上と高齢者や障害者が外出しやすい生活環境づくりを促進するものである。 <p>【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 概ね適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かい離は昨年より5ポイント改善したものの15点あり、引き続き事業の推進が必要である。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の役割分担、施策目的、社会経済情勢、施策満足度調査から、本施策の事業設定は妥当と判断し、適切と言える。
--

評価シート(B)

政策整理番号 4

施策番号	1	施策名	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発
------	---	-----	------------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効

概ね有効

課題有

【施策満足度から】 概ね有効

・施策満足度は55点で昨年と比較して5ポイント増加しており、事業実施の効果と受け止められる。

【政策評価指標達成状況から】 有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋

・政策評価指標「外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合」は目標値を上回っており、バリアフリー社会への取り組みが効果を現しつつあり、有効と言える。ただし、指標の達成度は調査対象者の状況や主観等により大きく影響されるものであることから、中期的な入パンで推移を見守る必要がある。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】 有効

・介護保険制度による宮城県内の住宅改修費申請件数の推移は、平成13年度3,508件、平成14年度4,571件、平成15年度5,008件(平成13年度の1.4倍)と継続して拡大傾向にある。このことはバリアフリーに関する県民意識の高揚の一端であると考えられ、施策の効果が認められ有効と言える。

【業績指標推移から】 概ね有効

・業績指標「適合証(だれもが住みよい福祉のまちづくり条例の整備基準に適合していることを証明するもの)の交付件数」は、昨年と比較して3倍以上に実績が伸びており、おおむね有効と言える。

【成果指標推移から】 判定不能

・指標なし

【総括】

・政策評価指標は目標値を上回り達成度は増加傾向にあるが、施策満足度は昨年度と比較して5ポイント増加し、社会経済情勢を示すデータ、業績指標から一定の効果が認められることから、事業群は「おおむね有効」と判定する。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的

概ね効率的

課題有

【施策満足度 業績指標・成果指標】 概ね効率的

・施策満足度は55点と昨年度と比較して5ポイント増加し、業績指標「適合証の交付件数」も大幅に増加していることから、相関があると考えられ、概ね効率的である。

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】 概ね効率的

・政策評価指標は目標値を上回り達成度は増加傾向にあり、業績指標「適合証の交付件数」も大幅に増加しており、おおむね効率的と言える。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】 概ね効率的

・介護保険制度による宮城県内の住宅改修費申請件数の推移は、平成14年度4,571件、平成15年度5,008件と拡大傾向にあり、業績指標の推移と正の関係があることから、効率的と判断する。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】 効率的

・効率性指標は2つの指標ともに伸びており、普及啓発事業の実施等により県民にバリアフリーに対する意識が着実に浸透してきている結果と評価でき、効率的に事業が実施されていると判断できる。

【総括】

・施策に対する満足度は若干ではあるが増加しており、バリアフリー、ユニバーサルデザイン化された施設は、適合証の交付件数の大幅な増加からも着実に推進されており、事業群は概ね効率的であると判断する。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切

概ね適切

課題有

・事業群設定の妥当性は適切、事業群はおおむね有効、事業はおおむね効率的であり、満足度も若干増加しており、事業群はおおむね適切と判断する。

政策評価指標分析カード(整理番号1)

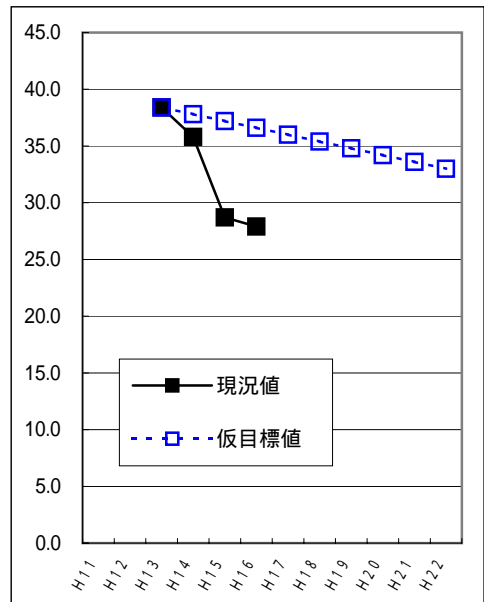
政策整理番号 4

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部地域福祉課	関係部課室	
政策番号	1-1-4	政策名	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備		
施策番号	1	施策名	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合		%						
目標値	難易度	H17	36	H22	33			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14			H14	H15	H16	H17	
現況値 (達成度判定値)	38.4			38.4	35.8	28.7	27.9	
仮目標値					37.8	37.2	36.6	36.0
達成度				...	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

「障害者や高齢者が住みやすいまち、だれもが住みやすいまち」という考えに基づき、外出時に何らかのバリアを感じている障害者や高齢者の割合を把握することで、だれもが住みよいまちづくりの進捗状況を示す指標として選定したのも。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		79.5	70	70						
	施策満足度 B	-		59	50	55						
	かい離 A-B	-		20.5	20	15						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
<p>達成度:A</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標の達成度は目標を上回るもので、バリアフリー社会への取り組みが理解されつつある。 指標の達成度は調査対象者の状況や主観等により大きく影響されうるものであることから、直ちに目標値の変更等を行うことはせず、中期的なスパンでの推移を見る必要がある。 	<p>判定:...</p> <ul style="list-style-type: none"> 政策評価指標は、平成14年度以降目標値を達成し、達成度は増加傾向を維持している。 施策満足度は、昨年と比較し5ポイント増加し正の相関が見られる。ただし、前々年度は相関が見られない。 このことから、直ちに正の相関があるとは言えない。 <p>相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)</p>

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・バリアフリー社会実現のためには、施設間を結ぶ線や面としてのバリアフリー環境の整備や、人の助け合い等心のバリアフリーも必要である。
 ・高齢者や障害者を持つ県民に直接アンケート調査しているもので、県民の満足度を知るうえで有効な評価手段である。バリアを感じるかどうかという主観による指標であるので、毎年度の数値が様々な要素で変動することが想定され、毎年度の調査結果を単純に比較することは難しい。
 ・このような問題もあるが、県が実施する施策の有効性を客観的に評価する上で、外出時にバリアを感じる人の割合を調査することは有効であり、引き続き外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合を政策評価指標とする。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 4

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部地域福祉課	関係部課室	
政策番号	1-1-4	政策名	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備		
施策番号	1	施策名	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】施策群設定の妥当性、施策群の有効性
・該当無し

【施策評価】事業群設定の妥当性、事業群の有効性、効率性
・バリアフリー社会を一層推進していくためには、施設整備などのハード的なバリアフリー化とともに、バリアフリーに関する県民意識の高揚、心のバリアフリー化を進めることが重要である。バリアフリーみやぎ推進事業は、このうち県民のバリアフリーに対する理解や意識の浸透を図るものである。施策満足度のかい離は15点と大きい。このことから、これまでの小学校児童及び一般県民を中心とした普及・啓発に加え、新たに中学生以上の学生や民間事業者等も対象とした事業についても施策を展開していく必要がある。

【上記対応により、当該事業を縮小・中止した場合の影響】
・該当なし

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
-----	----	----	----	-----

【見直しの視点とその理由】

・高齢化社会の進展、要介護高齢者等の増加に伴い、バリアフリー社会の推進は一層重要となっており、バリアフリーの普及・啓発についての事業対象者を拡大し、効果的・効率的に事業を実施する。

【次年度の方向性】

・バリアフリー、ユニバーサルデザインの普及・啓発はバリアフリー社会を実現する上での基本であることから、これまでの小学生への「福祉のまちづくり読本」の配布による福祉教育、一般県民へのパンフレットやホームページ等による啓発に加え、中学・高校・大学生への福祉教育や福祉活動実施の際の協働化(民間と県)などにより、より効果的な事業の推進手法について検討する。

主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名【H16決算見込額】	方向性	方向性に関する説明
1	主	バリアフリーみやぎ推進事業【4,779千円】	拡大	だれもが住みよい福祉のまちづくりの普及・啓発の対象者、方法の拡大により一層のバリアフリー社会づくりに向けて事業を推進する。
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				